



のいる風景

小林ひとみさん



【こばやしひとみさん】 富士

●ロクロ会会長
平成15年から陶芸団体「ロクロ会」の会長を務める。連絡先 電話(24)3447

ロクロを回しているよ、
こころが休まります。

陶

芸を始めてから、かれこれ30年になります」と話すのは、陶芸の団体「ロクロ会」の会長を務める小林ひとみさんです。

「友人が公民館で開催する陶芸教室の受講者を募集しているのをみつけ、一緒に行こうと誘われたのが陶芸を始めたきっかけです。誘われたそのときは、『えっ?!』という感じでしたね」と振り返ります。

その友人は、陶芸の心得が少しあったようです。誘われた小林さんは初めてのことでしたので、戸惑ったそうですが、その頃は時間にゆとりがあったので、「一緒に受講することになりました。」
「教室では、粘土のこね方をはじめ、粘土を板状にしてからお皿をつくったり、おにぎり状にしてからぐい飲みなどをつくる基礎編を6か月間学びました。その後6か月間は、電動ロクロを使った作品づくりを学んだのですが、ロクロを使ってから面白くなり、夢中

になってしまいました」と笑います。

「ロクロ会」とは、ロクロを上手に使えるようにとの願いを込めて命名したそう。公民館教室が終了するときに、もっと作品をつくりたい、上達したいと思うメンバー10人で昭和63年3月に発足しました。平成21年に25人いた会員は、現在、11人になりました。

平成21年4月、千歳高校にアシスタントティーチャーとして派遣されてきたイギリス出身の20歳代の女性が「日本の文化を学びたい」といって、「ロクロ会」に入会してきました。

その方とは、陶芸の専門用語を英語で説明することがむずかしく、身振り手振りで意思の疎通を図ったそうだが、「作った作品を見て、みんなおどろきました。デザインや色の使い方が私たちの作品と全く違い、カルチャーショックを受けました」。

会の発足から数年後、みんなの腕前も上達した平成6年に第1回作品展

を開催しました。この作品展は、今年で14回目を数えます。

毎回、テーマを決めて、一人10〜20の作品を作って展示します。今回は、「土の器で飲もう飾ろう」としました。小林さんは、大好きなビールがおいしく飲めるようにイメージして、ビールカップとおつまみ皿を作りました。ビールカップは、黒い土と白いうわぐすりで、おつまみ皿は、大きさのちがうものを白と黒のうわぐすりでそれぞれ仕上げたそう。来場者から『これ、いいね』などと言われるとすごくうれしくなって、励みになります。

陶芸ブームも、今は一時期ほどではありませんが、皆さんも一緒にやってみませんか?こころが休まりますよ」と笑顔で話してくれました。

「ロクロ会」は、毎月、第2、第4の火・水、18時〜21時頃まで文化センターで陶芸づくりを行っています。興味のある方は、気軽にお越しください。